



第63号
令和5年1月5日
発行者
綾瀬市身体障害者
福祉協会

明けまして

おめでと〜ございます

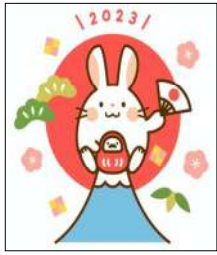
令和五年の幕開けです。

三年前から続いている「新型コロナウイルス感染症」も相変わらずですが、ワクチン接種も進み、昨年の夏以降少しづつ従来の社会状況に戻りつつあります。身障協会では、「総会」や「バス旅行」、市社会福祉協議会では理事会や委員会、それに行事として「ふれあいまつり」や「福祉レクリエーション大会」、「障害者週間」、神奈川県身連では「身体障害者スポーツ大会」から「身体障害者福祉大会・秦野」が短時間で参加人数は少ないですが、マスクを使用してですが始まりました。

今年身障協会も令和元年と同様に会員の方々が何も心配せず、総会を始め予定通りの行事参加が進められることを願っています。

今年もよろしく願います。

西川 和朗



第六十七回 神奈川県身体障害者福祉大会

高野 邦雄

「第六十七回 神奈川県身体障害者福祉大会」が、令和四年十月九日（日）に秦野市文化会館（クアーズテック秦野カルチャーホール）で行われました。

この福祉大会は、「県内の身体障害者が一堂に会し、障害福祉にかかる課題を確認しながら、連帯を深め、ともに生きる福祉社会の実現に向けて、大会宣言にかかげる行動を決議し、もって身体障害者の社会参加及び社会福祉の向上の促進を目指すものとする。」という目的で毎年行われていて、一昨年は伊勢原市、昨年は綾瀬市で開催される予定でしたが、コロナの感染拡大により残念ながら中止となり、三年ぶりの開催となりました。

今年開催地が秦野市でしたが、昨年に綾瀬スマートIC、今年には新東名の新秦野ICが開通したことで、ETCが設置されている市のマイクログラスはスムーズに会場の秦野市文化会館に到着することが出来ました。今年にはコロナの状況を考慮して、恒例の午後のアトラクションはなく、

午前中の式典だけの開催でした。また、参加人数の制限もあり、今回の大会は役員のみでの参加となりました。



定刻通りに大会がスタートして、内藤県身連会長や黒岩県知事の挨拶があり、開催市の高橋秦野市長による歓迎の言葉を頂きました。その後、神奈川県知事表彰、県身連会長表彰、感謝状などが、今年の受賞者に授与されました。



そして、来賓の祝辞後、受賞者代表の挨拶、肢体・視力・聴力障害者の受賞者による体験発表などがあり、最後に秦野市身体障害者福祉協会の宮本会長による「大会宣言」が行われ、無事に大会が終了しました。帰りにはお弁当が配布されて、皆さん各市町村に帰られて行きました。

来年は、相模原市で「第六十八回 神奈川県身体障害者福祉大会」が行われる予定ですので、皆さんご参加をよろしく願います。

第十二回 綾瀬市 福祉レクリエーション大会

阿部 享子

令和四年十一月十九日（土）、TMR O GLASS 綾瀬市民スポーツセンターの体育館で、三年ぶりに社会福祉協議会主催の「福祉レクリエーション大会」が開催されました。

当日は秋晴れの気持ちの良いお天気でしたが、まだコロナの状況をみながらの開催ということで、午前中だけで行われましたが久しぶりに楽しい時間を過ごさせて頂きました。

開会式では、社協会長、市長、市議会議長の挨拶などがあり、その後はいつも通りのラジオ体操かと思いきや、今回は何と！エアロビクスでの準備運動でスタート！壇上のインストラクターの動きに合わせて、皆さん競技が始まる前からもう汗だく状態でした。



午前中だけということもあり、今回は「さいころ競争」と「フープ輪投げ」の二競技だけでしたが、皆さん大盛り上がりで競技を楽しんでいました。最後に美味しいお弁当をもらって、皆さん帰路につかれました。

また、今回も市内の綾瀬高校、綾瀬西高校、日々輝学園、生蘭高専などの生徒さんが手伝いにくれて、大会を盛り上げてくれました。

今回も福祉レクリエーション大会を楽しませて頂きました綾瀬市社会福祉協議会や高校生ボランティアの皆さんに心より感謝申し上げます。また来年も福祉レクリエーション大会が開催されることを楽しみにしています。



障害者週間 &

あやせ夢アート展

十二月三日(土) 障害者週間の初日、ここ数年行われていなかった「障害者の日キャンペーン」をあやせタウンヒルで行いました。

綾瀬市社会福祉協議会・樋口会長、綱島局長、内田係長、大森さん、綾瀬市肢体不自由児者父母の会・川島

さん、綾瀬市精神障害者家族会あがむの会・工藤さんと身障協会の私。



寒い日だったので防寒具を用意して居ましたが、タウンヒルのご厚意で中でチラシ配りと、展示が行えたのでとても助かりました。十時の開店と同時に来客の方に、障害者の日のティッシュとアート展のチラシを手渡してゆきます。手渡しなので手にはビニールの手袋をして！。1時間もしないうちに用意した250個が無くなってしまう、こちらのキャンペーンは午前中に終わりました。

午後からと明日の9時半からは、市役所1階の喫茶むーで「あやせ夢アート展」の準備です。

四日(日) 九時半、3つの当事者団体と5つの障害者事業所の作品の展示は昨日準備がかなり出来ていたので、喫茶店内の飾り付けと配置換え。テーブルに花の鉢をおいて準備は完成です。どの位のお客さんが来てくれるか楽しみです。



開場時間になると、作業所の方々が20名ほど自分や友人の作品を見学に来ました。昨年の土曜日とは違い出足はあまり良くない？市民課の前も市民の数が少ない。でも午後になると少しずつ増えてきました。

今年はお茶店の開店時間が短いので月曜日からの来客数が心配していましたが、最終の9日迄に200人以上の来客があり、いらぬ心配でした。それに月曜日からの福祉課が入口近くに障害者週間や人権週間のパネルを設置してくれたので良い宣伝になりました。また来年もという声がありましたので、続くのかな。



国際福祉機器展 (HCR) 会場とウェブで同時開催

アジア最大規模の福祉機器展示会「第49回国際福祉機器展 (HCR)」(主催) 全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会) が10月5日から3日間、都内で開かれた。出展した342社

編集後記

クリスマスソングが聞こえる中の編集です。令和5年はもっと活発に活動できる日常にしたいですね。では、よろしく。

西川和朗

の製品約1100点の情報を簡単に取得でき、会場で開かれた国際シンポジウムなども視聴できるウェブ展も同時開催し、来場できない人も最新機器の情報が得られる工夫を施した。

会場内の通路を広げるなど十分な感染対策を講じた会場には、介護施設や在宅サービス関係職員、学生らが来場し、機器を試用したり、デモンストレーションに見入ったりする姿があちこちで見られた。

多くの来場者の関心を集めたのは、段差や悪路も乗り越える豊田自動車の電動車いすやプロモートの自動排せつ処理装置などの最新機器。抗菌仕様のマツトレスなど感染症対策に役立つ機器にも人だかりができた。

HCRは来年50周年(2023年9月27、29日開催予定)の節目を迎える。開会式典で清家篤・全国社会福祉協議会会長は「コロナ禍による渡航規制が解除されれば、来年は以前のような機器展を開催できる。未来を切り開くHCRにしたい」とあいさつ。また、羽生田俊・厚生労働副大臣は「HCRは世界有数の機器展。厚労省としても関係省庁と一丸となって機器の開発、普及に取り組みたい」と述べた。